



人はだれもが天才ですが、しかし、木登りの能力で魚を判断したら、魚は一生、自分は愚かであると信じて生きることになるでしょう

——アルベルト・アインシュタイン※

※Albert Einstein(1879-1955)……ドイツ生まれのユダヤ人の理論物理学者。20世紀最大の物理学者、現代物理学の父とも呼

ばれる。光量子仮説に基づく光電効果の理論的解明によって1921年ノーベル物理学賞を受賞。

- ◆ **2015年度学校説明会報告**・・・私たちが学校に直接出向いて手に入れた最新情報です。通塾率や時間講師数、学校に対する評価・印象などは一般の受験案内には載っていません。

【星野学園中学・高校】創立119年の伝統校です。小・中・高の共学部と高校のみの女子部があります。クラブ活動や学校行事などは一緒にやるそうです。男子校の川越東高校は同じ星野一族の経営する姉妹校です▼真面目さが校風です。部活には全員が入っています。部活動も盛んです。44%の生徒が高校3年間皆勤だそうです。創立以来、退学にした生徒は0人ということです。校舎は耐震構造で、講堂、体育館、プールなどの設備も大変充実しています。いざというときの保存食料も常備しています▼共学部・女子部とも習熟度別の4クラスに分かれています。現役合格率は98.4%と非常に高く、平成27年度は国公立に卒業生625名中79名が合格しています▼通塾率は高校3年生で3割程だそうです。長い伝統に裏打ちされた安心感のある学校です。特に大きな特徴はありませんが、進学指導、設備、情操教育のいずれも平均点以上はあり、真面目に学校生活を送りたい生徒にお勧めできる学校です。(下山)

【淑徳中学・高校】東武東上線「ときわ台駅」より徒歩13分。明治25年創立、123年の歴史のある仏教系の共学校です。年4回の仏教行事があります。新校舎になり3年目です。中学は161名、高校は408名の入学者を迎えています。どちらも定員を満たしています。以前は女子高でしたので、その雰囲気が残っていたのか生徒会長はずっと女子でしたが、ここ3年は男子の生徒会長が連続しています。学校の雰囲気も完全に共学になっている、以前とは違うというようなことを校長先生は話されていました▼中学入試において4年前に始めた「東大選抜」の入学者は17名→25名→30名→42名と増えてきています。「東大選抜」の1期生が現在高1なので真価が問われるのは3年後となります▼中学では、火曜・木曜に放課後自学自習をさせます。中高とも放課後講習は無料、夏期講習などは1教科1000円前後で受講できます。放課後講習は、中学では理解不足の生徒を対象にしたもので、高校では基礎と応用に分かれます▼専任の教員と非常勤の講師の比率は3：2ということでした。予備校・塾にはほとんど行っ

ていないのではないかということで、通塾率ははっきりとは教えてもらえませんでした。進学実績は実数で、早稲田 30 名、慶応 17 名、上智 27 名、理科大 31 名。国公立は現役で東工大 1 名、筑波 3 名、千葉 4 名、埼玉 5 名、東京農工大 6 名、外語大 1 名、東京海洋大 2 名、首都大 1 名、横浜国立 9 名、横浜市立 1 名、国際教養 1 名、山形 3 名、群馬 1 名、その他国公立 10 名となっています。なお、パンフに東大 1 名とあるのは浪人です。上位 3 分の 2 に入れば GMARCH 以上に進学できるとのことでした。確かに高校入試の併願基準(スーパー特進 69, 特進選抜 65)を考えれば妥当なところでしょう▼高校入試では留学コース(単願のみ)があり、1 年間留学が出来て 3 年間で卒業できます。是非とも高校時代に留学したいという人にはいいかもしれません。ただし留学費用で 400 万円近くかかります。(加藤)

【西武文理中学・高校】川越からスクールバスで 25 分ほどのところにある共学の進学校です。通学にやや時間がかかりますが、その分広々とした敷地で学校生活を送ることができます▼エリートを育成するグローバル教育ということで、英語教育に力を入れています。昨年と同じく、先生方の英語での自己紹介で始まる楽しい説明会でした。在校生は中 3 で英検 2 級、高 3 で英検準 1 級の取得を目標としています。達成する生徒はごく少数とのことです。大学進学については、「東大合格 10 名目標」という横断幕が相変わらず掲げてありましたが、今年も合格は 1 名です。「達成できなくても目標は高い方がいい」という話もあり、そういう考え方を否定するわけではありませんが、10 名目標と言うならせめて 6,7 名くらいの合格は出して欲しいものです。ちなみに、埼玉の私立では、栄東と開智が毎年 10 名前前の東大合格者を出しています。栄東と西武文理はライバル校というイメージがかつてはありましたが、現在では競合しないランクに位置する 2 つの進学校です。慶應 15, 早稲田 46, 上智 31 (重複はかなり多い、とのこと)という合格数も上位の進学校というには物足りません▼教員は専任が多い、通塾率は高い(ちなみに東進に通う生徒が多いそうです)ということですが、どちらも具体的な数値は教えてもらえませんでした▼共学の進学校を希望で、栄東を受けるには成績が足りない、開智は遠い、という人には板橋の淑徳とともに検討すべき学校になると思います▼また来年度の入試から中高ともに出願はインターネットのみとなります。(入部)

【城西川越中学・高校】創立 44 年の進学高ですが、近年、他の進学校に水を開けられ、学校改革の真最中です。改革をより促進するために今年から田部井校長が赴任しました。パワフルで熱い思いが伝わってくる人物です。教育内容の説明にあたった同校出身の並木先生は、7 年前に赴任したとき、母校があまりにダメになっていたことに驚き、このままではつぶれると危機感を持ったそうです。教師の平均年齢は 39.5 歳です。停滞していた時期から大半の教師が入れ替わり、若手を中心に休日返上でがんばっているそうです▼中・高とも毎週小テストがあり、不合格者は補習を実施しています。高校では正規授業の他に中堅から難関大学のレベルに合わせた課外講習があり、計 800 分の授業を 1000 円で受けることができます。夏休みには、中学は 15 日間、高校は 24 日間の補習授業があります▼部活にも熱心に取り組ませ、全員が好きな部活に加入できます。中 1 ではほぼ 100%、高 1 では 90%の生徒が自主的に部活を入っています。指定校推薦も勉強の成績だけではなく、部活もしている生徒を優先しているそうです▼専任教師は 61 人(城西卒業生が 17 人)、時間講師 20 人です。通塾率は高 3 になると 50%近くなるようです▼平成 27 年度大学入試では、浪人も含んで国公立大学に 33 名、早慶上理はのべ 61 名、GMARCH はのべ 128 名が合格しています。卒業生は 256 名です▼男子校ですが、おとなしくシャイな生徒が多いそうです。今年、東大・東工大に合格者を出し、陸上部も 400m リレーでインターハイに出場するなど、生徒・教師とも盛り上がっているそうです。駅からは遠く、スクールバスに乗る必要があります。運賃は通常の 7~8 割です。内進生と高入生は高 3 で一緒になります▼特選クラスでも部活制限はなく、部活にも勉強にもがんばりたい生徒に向いている学校です。入試担当の先生いわく、今は入りやすく、お

得な学校だと言うことです。(下山)

【東京農大第三中学・高校】東農大三中学・高校は、森林公園の一つ手前、東松山にある共学の私立校。

東松山駅からスクールバスで10分ほど。東京農業大の付属校です《中学部》

2009年に新設された中学校の一期生が、今年初めて大学受験をしました。全体として高校部と同程度の実績で、説明会でも進学実績に対する特に強いアピールというものはありませんでした。6年かけての進学指導であることを考えると、もう少しいい結果が出てよかったなと思いました。ただ合格した大学には、国立医学部(群馬大)、北大、早大、慶大などが名をつらねており、入学後にやる気さえあればトップの大学までねらえる指導体制は整っていると思います▼東農大三中は伝統的に「実学」志向で知られています。味噌づくり、稲作体験、屋上菜園といった、土やモノとじかにふれあう学習は、他校にない農三の特長です。今年度から赴任した校長先生も、東京農業大学の元教授で、発展途上国の農村で農業開発の支援を長年行ってきたという経歴のもちぬしです▼来年度から高校部のほうのコース編成が変わりますが、中学から入学した生徒はこれまでどおり「中高一貫コース」に所属します。高校部で一定の成績(通知表平均3.2)を修めていけば東農大への推薦がもらえる部分も従来と同じです▼学校に求めるものが受験指導最優先ではないけれど、大学進学は確実にしたい生徒。そして、「実学」志向と波長が合う生徒には、おすすめできる学校です《高校部》高校部は今年からコースを大きく変更します▼Iコースは「進学重視」。国公立大を視野に入れた勉強をし、東農大への推薦権はありません▼IIコースは「文武両道」。私大を目指した勉強をし、部活にも力を入れます。東農大への優先入学資格があります。2年次にIコースに移ることも可能です▼IIIコースは「スポーツ科学」。いわゆるスポーツ推薦のようなコース。合格には部の監督の推薦が必要です▼高校部全体の実績は、卒業生約440名のうち、国公立21名、早慶12名。公立高校では、朝霞と和光国際の中間ぐらいの数字で、上位大学への進学実績はややものたりない感じです。一方、「四年制大学への進学率」で見ると、88%と高い数字を出しています。全生徒の25%程度が農大に進学するということもあり、このあたりの数字には付属校としてのカラーが少し出ている感じがします▼説明会では、「文武両道」コースを「中核になる」コースと表現していました。個人的にも、農大三高のよさは、部活もバリバリやりつつ、大学進学もある程度確保できる点にあるのではないかと思います。「勉強」か「部活」か、あるいは「進学校」か「付属校」かという切り口でみると、農三は実にふところが深いというか、中途半端というか、とにかく多様な生徒をかかえる学校だと思えます。今回のコース変更はその多様な生徒のニーズにできるだけ応えようとしたものだと思います▼個人的には「高校生活は部活重視。ただ難関大にはこだわらないけれど大学には確実にいきたい」という生徒にはおすすめの高校だと思えます。(角)

【大妻嵐山中学・高校】大妻嵐山は、東上線の武蔵嵐山にある私立女子中。志木駅からだと50分ほどかかりますが、下り電車なので通学は楽です▼私は過去6年間で4回ほど、この学校の説明会に顔を出しているのですが、いくたびに別の校長先生になっています。大妻嵐山は伝統的に女子の理系教育に力を入れてきた学校ですが、最近になって英語教育にも力を入れており、模索を続けていました。今年の説明会では「グローバル・エコサイエンススクール」というキャッチフレーズが使われて、これまでの変革の流れを総括するような話が聞けました▼「グローバル」の言葉どおり、今後も英語教育には力を入れていくようです。イングリッシュキャンプへの参加や、夏休みに3週間のイギリス語学研修、1ヶ月間の海外留学など、学校全体として本物の英語にふれる機会を大きく増やそうとしています。説明会の大部分は、英語教育の話で、演壇に立った先生には「とにかく変える」「やれることはすべてやる」という熱意を感じました▼「サイエンス」の部分に関しては説明会ではあまり話が出せませんでした。理科実験室の設備の強化、電子黒板や全校生徒へのiPadの配布など、ハード面でのサポートには力を入れ

ているようです。また「オオムラサキの飼育・観察」が単位に組みこまれているなど、理系に強い学校としての伝統は残っています▼大妻女子大への進学率は25%程度で、他大受験の割合のほうが高い学校です。大妻への進学を希望すれば、落ちることはないようなので、付属校としての魅力も一応あります。ただ、大妻女子には理系学部がないので、嵐山の位置づけはややちぐはぐです▼大学進学ですが、卒業生は180名前後。国公立大への進学は過去3年間で10→16→9人、早慶上智が4→15→5人（重複あり）となっています。近場の公立高では和光国際が似たような実績でしょうか。医歯薬看護系の合格者が46→45→35人（重複あり）というのは、理系重視というだけあって、この偏差値帯の女子高としてはかなり多いと思います（もっとも医学部は数名です）▼高校受験の併願の基準は北辰偏差値で57程度です。ですが、なんだかんだと加点制度があって、53ぐらいから可能性があります。中学受験においても、1月受験の定番校になっています▼女子校、立地、理系重視の教育などの要素は、全体の人気という点ではややマイナスに働くように思います。逆に、そのあたりをプラス面として評価できれば、学校の魅力のわりには入学偏差値が低い「お買い得」な学校だと、個人的には思います。（角）

【浦和学院高校】JR 武蔵野線「東川口駅」からスクールバスで20分です。中学はなく高校だけの学校です。男女比は55:45で、全校生徒数は2640名のマンモス校です。今年の入学者は949名となっています。基準をクリアしている併願受験者が2名不合格になっています。受験生としてふさわしくない態度（試験開始後すぐ寝てしまうなど）であったということでした▼マンモス校が大雑把な学校ではないと強調していました。年間5回のレギュラーの面談を行っています。その他、必要に応じて実施しているとのこと。在校生は、さいたま市内から36%、川口市・越谷市から61%が通学しています。地元根付いた学校だとアピールしていましたが、さいたま市の広さを考えるとどうなのでしょう▼校長は、「生徒の笑顔」が輝く学校を目指したいと、体育祭や部活を通して「ファミリー意識」を高める取り組みをしていると語っていました。校長が着任した7年前は中退率が6%でしたが、現在は2.98%になっていますので、一定の成果が上がっているようです▼費用面に関して詳しい説明がありました。スクールバスは無料です。3年間で250万円前後かかりますが、国や県から助成をうけて実質150万円になっている生徒が全体の6割に上っています。県の助成金は所得に応じて変わってくるので事務処理が煩雑になりますが、生徒に申請書類を配布して終わりにするのではなく、必要な生徒には提出を徹底させています。全体的には必要な生徒の半数ほどしか申請していないという現状があります▼現役の進学率の高さを強調していました。浦和学院全体では86%になっています。埼玉県内の大学現役進学率は64.4%、埼玉県内の私学だけにすると74.4%になりますから、浦学の数字の高さがうかがえます。卒業生782名のうち341名が指定校推薦を使っています。現役の実績は、国公立は26名（埼玉2名、電気通信1名、宇都宮1名、山形3名、信州1名、群馬1名など）、主な私立は早稲田2名、青山2名、中央9名、法政8名、立教4名となっています▼進学補習は無料の講座が多く開講されていますが、一部有料のものもあります。予備校や塾に通っている者はほとんどいないとのこと。常勤講師が106名、非常勤が33名となっています。（加藤）

◆ 行事予定

- 11/3 小6 首都圏模試 □ 11/4 創立記念日(休講) □ 11/8 中3 北辰テスト
- 11/16~21 小・中1・2 父母面談（ご父母と担任教師、マンツーマンの面談）
- 11/22~29 期末テスト対策週間（中学ごとに試験対策授業をします。詳しい日程表は後日配布します）
- 12/6 第7回中3 北辰テスト（11/7~14までに受験料4600円を持ってきてください）【編集/加藤】